

2025.5月の新着本より



まどからぴよこっ! 新井洋行

まどからちょこっと見えるもの、
なにかななにかな？

うさぎやカエル、虹に、おばけ！子どもたちが大好きなモチーフもたくさん！
どんなものが出てくるか想像し、パッと登場したときの楽しさを、赤ちゃんといっしょに体感できます。親子で語り合いながらコミュニケーションをはかれる“いないいないばあ”絵本です。



きらきらぴかぴか もようだいすき
あかいしゆみ/瀧靖之(監修)

動物や虫、植物をモチーフに、ストライプ・水玉・らせんなど模様をふんだんに盛り込み、より赤ちゃんが興味を持つようなきらきら仕様の絵本になりました。きらきら光るホログラムは絵本の中でも、赤ちゃんに大人気。プレゼントにもおすすめです。脳科学の見地からも、東北大学の脳科学者瀧先生が効果を解説しています。

はたらくくるまたちの はたけしごと

シエラ・ダスター・リカー/AG・フォード/福本友美子

働く車たちが農場にやってきた。農場ではトラクターたちがお出迎え。さあ、いっしょに働こう！

車たちは、力を合わせて動物の小屋を建て、畑を耕し、種をまき、作物を取り入れる。春夏秋冬、いきいきと働く車たちが、作り上げる楽しさや自然の豊かさを伝えます。そして、働いたあとの安らぎも……



十年屋 7 タイムセールいたします

廣嶋玲子/佐竹美保



十年屋のマスターは、見かけによらず、片づけが大の苦手。お客様から預かって、そのままお店が引き取ることになった物が、店内にあふれかえってしまい、執事猫のカラシもとうとう大爆発！「こうなったらあれをやるしかないのです！」ということで、十年屋史上初のタイムセールが始まります。そこへ、魔法街をゆるがす大ニュースも飛びこんできて……。ついにあのカップルにも進展が!?



おおきなおおきな あさごはん

リチャード・ジョーンズ/よしいかずみ

あるひ、ことりがやってきて、ぼくの手からごはんをたべた。「ことりさん、また あした」するとつぎの日、2ひきのネズミがなかまいり。さらにつぎの日、4ひきのリスもなかまいり。みんな、あさごはんをまってるよ。どんどんなかまがやってきて、255ひきがあつまった！みんなおなかいっぱいになるのかな？

がりがりがり、むしゃむしゃむしゃ・・・オノマトペがいっぱいで、読み聞かせも盛り上がる！



やさいのなは なんのはな?

宮崎祥子/網野文絵

おほしさまみたいな きいろい はな。
ラッパみたいな はな。
やさいのなはだよ、なんのはな？

いつも たべている やさいは、どの「ぶぶん」を たべている？

かがくのもでみると、ふしぎがいっぱい！
知る たのしさにてあえる クイズ形式の認識えほん。

★科学って、おもしろい！〈かがくすっ〉は3、4歳から理解でき、楽しめる科学絵本シリーズです。

ようこそ！たんぽぽ書店へ！

市宮早記/ななミツ



小さな書店を営む梨久の家の隣に越してきたのは、とても感じがいい同い年の男の子。本好き同士で仲良くなれそうな気がし、翌日会ったら態度が急変。「だれだよ、おまえ」って!?

傷ついた梨久だが、あとから双子の兄弟だと知る。梨久は怖いほうの亜樹と同じクラスで図書委員を一緒にやることになる一方、もう片方の由樹は書店の店番を手伝ってくれることに。二人の思わぬ姿や隠した気持ち、悩みを知り、梨久は勇気を出して一歩踏み出す決意をする。

ノースライト 横山秀夫

北からの光線が射しこむ信濃追分のY邸。建築士・青瀬稔の最高傑作である。通じぬ電話に不審を抱き、この邸宅を訪れた青瀬は衝撃を受けた。引き渡し以降、ただの一度も住まれた形跡がないのだ。消息を絶った施主吉野の痕跡を追ううちに、日本を愛したドイツ人建築家ブルーノ・タウトの存在が浮かび上がってくる。ぶつかりあう魂。ふたつの悲劇。過去からの呼び声。横山秀夫作品史上、最も美しい謎。

つぎはぐ、さんかく 菰野江名

「たとえそのつぎ目が不格好でも、つながっていらればそれでいいと思っていた。」

惣菜と珈琲のお店「△」を営むヒロは、晴太、中学三年生の蒼と三人兄弟だけで暮らしている。ヒロが美味しい惣菜を作り、晴太がコーヒーを淹れ、蒼は元気に学校へ出かける。

しかしある日、蒼は中学卒業とともに家を出たいと言い始める。これまでの穏やかな日々を続けていきたいヒロは、激しく反発してしまうのだが、三人はそれぞれに複雑な事情を抱えていた――。傷つきながらも身を寄せ合って生きてきた三人が、懸命に明日を紡いでいくための物語。

星の教室 高田郁

主人公の潤間さやかは、中学の卒業証書を受け取っていない。

義務教育さえまともに終えていないという枷が、社会でも家庭内でも、さやかを生き辛くさせていた。しかし、ある日、さやかは夜間中学という存在を知る。それは、戦争や貧しさや病など、さまざまな事情で義務教育を終えられなかった大人たちの集う学校だった。

二十歳の春、さやかは河堀夜間中学への入学を果たす。仲間たちに支えられて過ごす日々が、学校や親への不信で雁字搦めだったさやかの心を解きほぐしていく。やがて、さやかには密かに叶えたい、という夢が芽生え始めるのだが……。

ほんまに「おいしい」って何やろ? 村田吉弘

著者の村田氏は、京都の老舗料亭「菊乃井」の跡取りとして生まれ、「ほんまにおいしいものって何や?」ということを追及して70余年。

昨今の、おおげさに「うま〜い、おいしい」を繰り返すテレビのグルメ番組や、「お金さえだせば、おいしいものを食べられる」と勘違いするグルメ・ブームには、ぴしゃり!とダメだしをしつつ、身近な給食や家庭の手料理まで「おいしさの本質」を追及し、後進を育てている。

抱腹絶倒! 歯に衣を着せぬ食の世界と波乱万丈な人生を語り、食の本質、食の未来に熱く迫る!

透析を止めた日 堀川恵子

「私たちは必死に生きた。しかし、どう死ねばよいのか、それが分からなかった」

なぜ、透析患者は「安らかな死」を迎えることができないのか？

どうして、「緩和ケア」を受けることさえできないのか？

10年以上におよぶ血液透析、腎移植、再透析の末、透析を止める決断をした夫。

その壮絶な最期を看取った著者による、息をのむ医療ノンフィクション!

今度生まれたら 内館牧子

「今度生まれたら、この人とは結婚しない」70歳の主婦、佐川夏江は自分がやり直しのきかない年齢になっていることにショックを受ける。人生を振り返ると、あの時別の道を選んだらどうなっていたかと思うことばかり。進学は、仕事は、結婚は。少しでも人生をやり直すため、夏江はやりたいことを始めようとあがく。

青い壺 有吉佐和子

シングルマザーの苦悩、すれ違う夫婦、相続争いに悩む娘の言葉を聴いてドキリとする親…人間の奥深く美食うドロドロした心理を小気味よく、鮮やかに描き出す絶品の13話の中にはあなたの知っている人が必ずいます。

「誰かと語り合いたくなる」――壺にハマる人、ますます増えています!